

# 2019年3月期 決算説明会

---

2019年5月29日（水）

代表取締役社長 中川 賢司

1. 2019年3月期 決算概要
2. 受注状況について
3. 次期（2020年3月期）の計画
4. 事業展望と課題の進捗状況

# 1. 2019年3月期 決算概要

# 2019年3月期 業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	前期	2019年3月期	対前期	
	2017年4月-2018年3月	2018年4月-2019年3月	金額	前年同期比
売上高	2,425	2,585	+159	+6.6%
売上総利益	710	661	△48	△6.8%
販売管理費	508	568	+59	+11.8%
営業利益	201	93	△108	△53.7%
経常利益	166	60	△105	△63.6%
当期純利益	144	56	△88	△60.9%

# 期初予想との対比

(単位：百万円)

	2018/5/14 発表 期初予想  2018年4月-2019年3月	2019年3月期  2018年4月-2019年3月	対予想	
			増減額	増減率
売上高	2,778	2,585	△193	△6.9%
営業利益	118	93	△24	△20.8%
経常利益	79	60	△19	△24.3%
当期純利益	67	56	△10	△15.4%

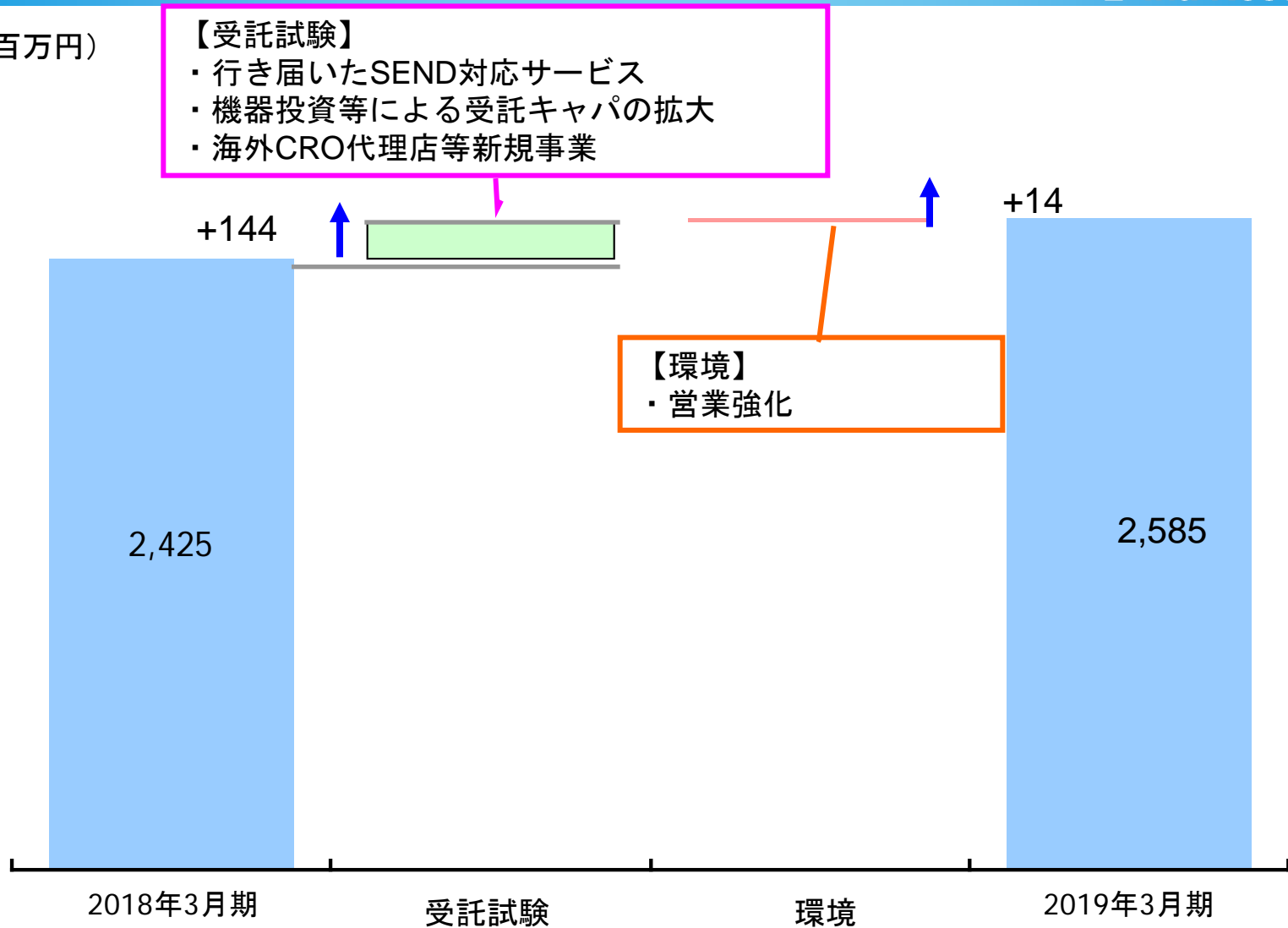
# セグメント別業績

(単位：百万円)

		前期(※連結) 2017年4月-2018年3月	2019年3月期 2018年4月-2019年3月	対前期	
				金額	前年同期比
受託試験	売上高	2,174	2,319	+144	+6.6%
	営業利益	185	72	△113	△61.1%
環境	売上高	250	265	+14	+6.0%
	営業利益	10	21	+10	+99.6%

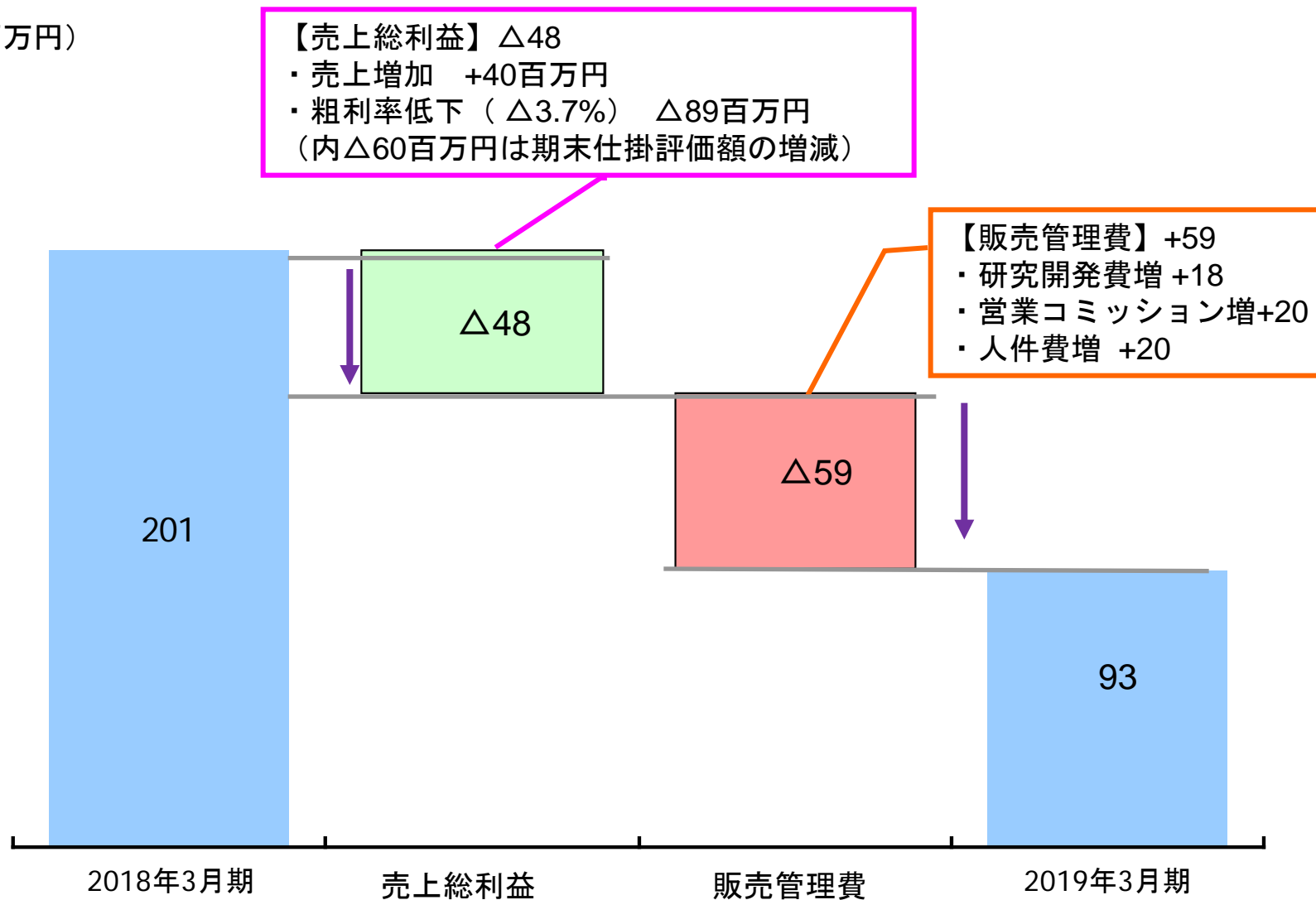
# 売上高増減内訳

(単位:百万円)



# 営業利益増減内訳

(単位:百万円)





# 自己資本比率・配当

## 自己資本比率

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
自己資本比率 (%) (自己資本／総資産)	19.5	20.7	23.5

## 配当

2019年3月期・2020年3月期については、無配とさせていただきます。

## 2. 事業環境について

## 医薬品業界の現状

- ◆国内製薬会社は、薬価改訂による国内売上高の鈍化が見られるものの、各社各様に収益の維持拡大に努め、総じて横ばい～緩やかな回復基調にあるものと見られる。
- ◆2019年3月期において国内製薬会社の研究開発費は総じて増加し、目下は開発費を絞る動きは見られない
- ◆製薬会社において、研究開発の一部機能を切り離すなどの動きは依然見られる
- ◆がん治療及び中枢神経関連の開発が依然盛ん
- ◆革新的かつ効果の高い医薬品開発が求められており、選択と集中は更に進んでいる

## 新たな医薬品、医療技術の動向

### ◆細胞治療（iPS細胞等）

ユニバーサルセルなど他家iPS細胞の免疫反応を弱める研究が進みつつある。アカデミア、企業ともに目下は様子見している雰囲気もうかがわれる。眼科、心臓、神経などの領域は臨床研究段階にある。

### ◆抗体・核酸医薬品

取り組み企業は固定化しつつあるが開発品は増加。

### ◆ガン免疫療法

PD-1製剤の開発、CAR-T療法の基礎研究が国内外で増えつつある。効果の向上、安全性の確認に課題あり。

### ◆医療機器開発

地道に拡大

## 海外の新薬開発の動向

### ◆欧米ではベンチャーを中心に医薬品開発は依然活発

米国は依然新薬開発モチベーションは高く投資も活発。がんを含む難病専門薬の開発が盛ん

### ◆アジア諸国においても新薬開発企業が年々増加

- ・ ジェネリック製造 ⇒ 開発品導入 ⇒ 新薬開発
- ・ 欧米製薬企業や研究機関の就業経験者が帰国 ⇒ バイオ医薬品開発
- ・ 国が予算を投じて医薬品開発を支援
- ・ 自国の非臨床CROの歴史が浅く、欧米・日本のCRO頼み

## 非臨床CROの動向

- ◆各社共に受注は比較的好調で現在までのところ忙しい状況が続いているものと認識

## 今後の動向予測

- ◆日本の新薬開発メーカーの新薬開発は微増を見込む
- ◆製薬企業は医薬品のみならず様々な治療法の開発やAI活用などへ事業拡大を図っていく事が予想される
- ◆日本政府は遺伝子療法などの新技術に期待を寄せ、引き続き活発な支援を行う事が予想される
- ◆再生医療（ことiPS関連）は他家細胞＝拒絶反応の課題をクリアする事が先決
- ◆アジア諸国においては引き続き医薬品開発の拡大が期待される
- ◆中国の新薬承認拡大により中国で国際治験を推進する製薬会社が増える。但しOECD（GLP）非加盟等の理由により非臨床の大幅な中国移行は当面ないものと見る

### 3. 次期（2020年3月期）の計画

# 2020年3月期 業績予想

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	対2019年3月期	
	実績	予想	金額	対前期 増減率
売上高	2,585	2,996	+410	+15.9%
営業利益	93	104	+10	+11.7%
経常利益	60	75	+15	+25.1%
当期純利益	56	63	+6	+11.5%

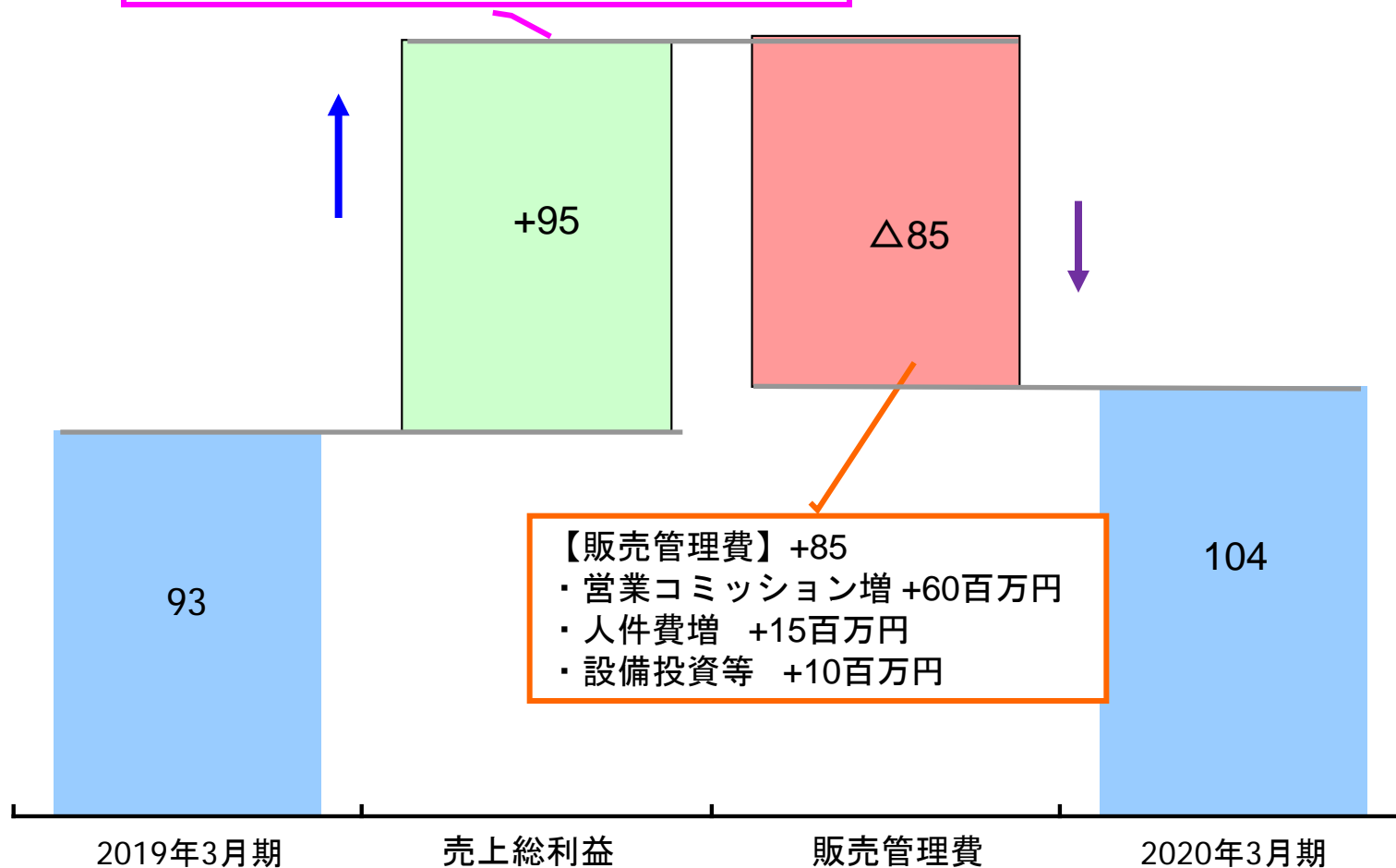


# 営業利益増減内訳

(単位:百万円)

【売上総利益】 +95

- ・売上増加 +103百万円
- ・粗利率低下 (  $\Delta 0.3\%$  )  $\Delta 8$ 百万円



【販売管理費】 +85

- ・営業コミッション増 +60百万円
- ・人件費増 +15百万円
- ・設備投資等 +10百万円

## 4. 事業展望と課題の進捗状況

## バイオ医薬品試験の拡大

### ◆最新検査機器を導入

海外からのバイオ医薬品受託が増加し、実績は着実に積み上がりがつつある

## 顧客層の拡大

### ◆化学品、医療機器関連等を含めて取引顧客数が増加

### ◆エージェントの拡大による海外顧客獲得

# 環境事業の展望

- ◆エンジニアリング（研究所の内装等）の拡大により  
過去7年間黒字を継続し、営業利益は比較的安定  
（2016年度 37百万円、2017年度 10百万円、2018年度 21百万円）
  
- ◆研究機関の増改築は依然案件が多い
- ◆海外への販路拡大を模索
  - ⇒ 人材育成と資格者確保が課題

## 5. 新規事業及び研究開発

# 新規事業（1）

## 海外CRO代理店事業

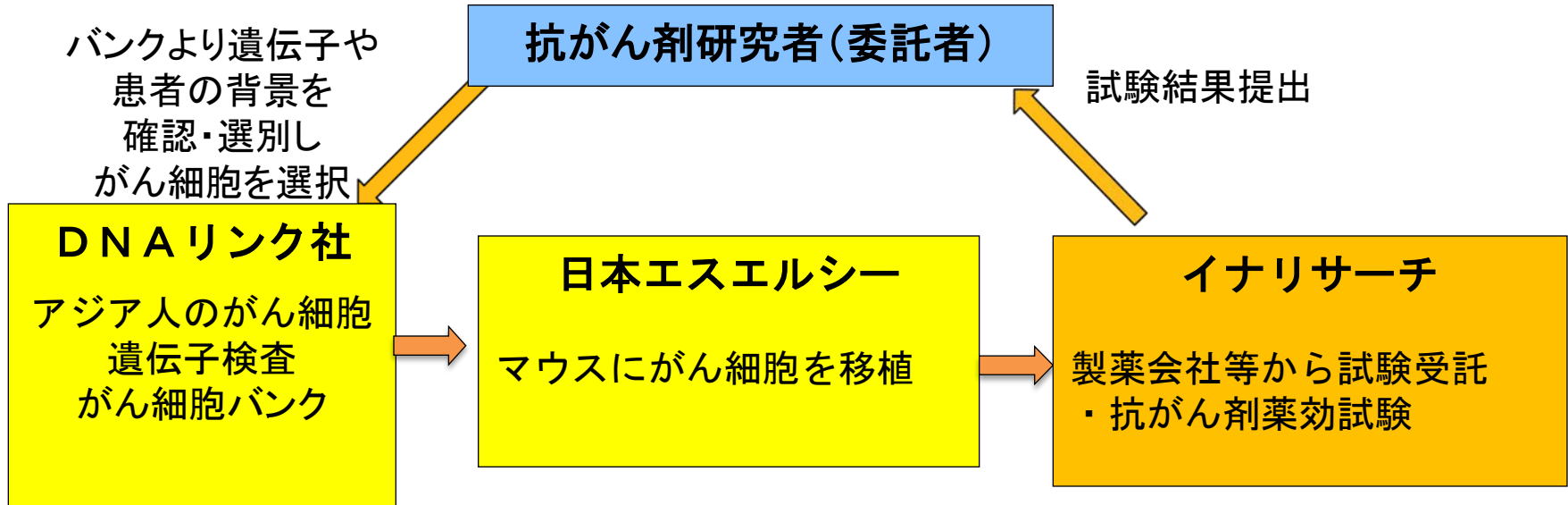
- ① **Southern Research**（米国）：感染実験・ウイルスベクター抗がん剤試験他
- ② **IES**（スイス）：環境毒性試験
- ③ **Vivotechnia**（スイス）：吸入毒性試験他
- ④ **ZeClinic**（スペイン）：ゼブラフィッシュ試験



日本にない特色ある技術を持つ海外CROの代理店業務。  
自社設備キャパシティの枠に囚われない収益の拡大を目指す。

# 新規事業 (2)

## PDXマウスモデル事業



### 意義：

- ・ 患者細胞のため正確性が高い
- ・ 様々な遺伝背景を持つがん細胞を用いる事により、抗がん剤の個別化医療を推進

### AMED事業

CAR-T細胞の非臨床安全性試験を行う為の  
オープンラボ整備（イナリサーチ敷地内）  
アカデミア、企業の新規シーズに対して霊長類  
による安全性評価試験を提供可能とする

#### 信州大学・京都府立大学

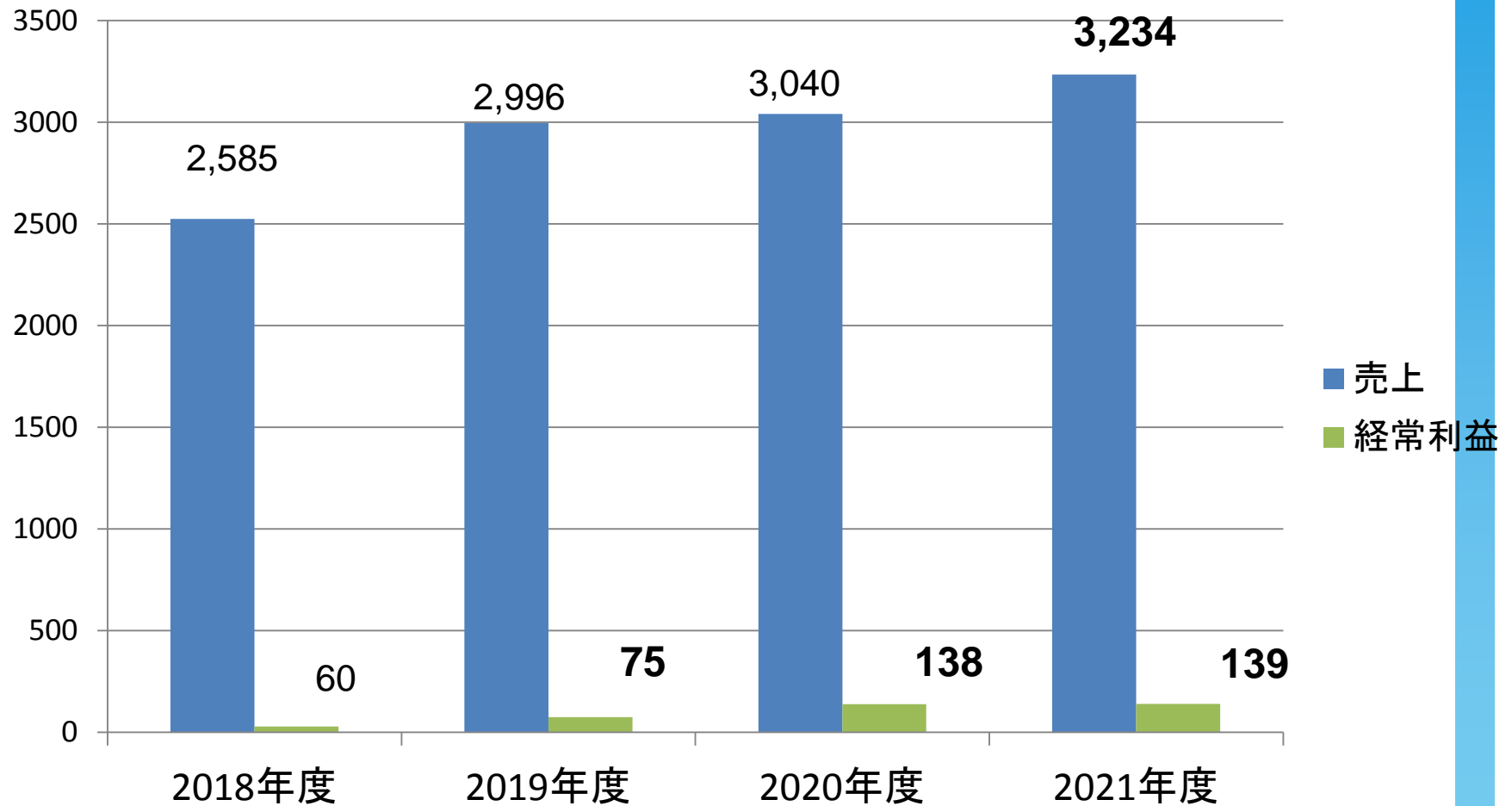
- ・ 新規CAR-T療法研究開発
- ・ 新技術による霊長類CAR-T  
製作技術開発

#### 株式会社イナリサーチ

- ・ 霊長類CAR-T細胞の安全性  
試験実施
- ・ 霊長類モデル非臨床試験の  
確立（PMDAと相談）
- ・ アカデミア、企業の新規  
CAR-T細胞シーズに対する  
受託オープンラボの整備



# 中期計画(3カ年計画)



# 中期経営計画の概要

## 健全かつ地道な事業拡大

- ・ キャパシティー拡充に向けた投資・増員
- ・ 国内外での営業活動拡大
- ・ 国内提携先、海外CROとの関係強化

## 事業の基本の遵守

- ・ 信頼性遵守
- ・ サービスの向上
- ・ 改善活動の継続

## さらなる研究開発型企业へ

- ・ 遺伝子治療
- ・ 再生医療
- ・ アカデミアとの連携強化

## 環境事業の拡大

- ・ 独自の空調技術
- ・ 国内外の協力網整備
- ・ 価格の低廉化、販売市場拡大

# ご清聴ありがとうございました

## IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ  
総務部 IR担当

TEL : 0265-72-6616

医薬品開発のベストパートナー



**Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2018年5月30日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2019年5月29日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。